
故 野 村 義 弘 氏 を 悼 む

会員野村義弘氏は八幡浜市立病院に御入院御療養中のところ、御薬石効なく、9月23日、突然心臓麻痺で御なくなりになられた御由です。心から御冥福を御祈り申し上げる次第でございます。

さて、故人をしのぶ追悼の文をと筆をとって見ますと、いろいろ思い出があり、走馬燈のように目の前を走り去ります。最初に御目にかかったのは、昭和31年の秋ですから、今から十数年前となります。私は、地図を見ているうちに、九州に向って細長く突き出ている佐多岬に行ってみたくなり、金沢を出ました。さて到着してみると、当時は大変交通不便の所で、随分歩きました。これも今では思い出の一つです。八幡浜に旧友菊地三郎氏が居るので、帰途訪ねたところ、熱心な植物の研究者が居られるから紹介しようという事で、野村さんの住んで居られる伊方町に行きました。その夜は宿の二階で、大皿に美しく盛られたふぐのさしみをさかなにして、盃を重ねながら夜通し植物の話を続けましたが、真に心暖る一夜であり、初対面の野村さんが旧友で、旧友の菊地さんが初対面というような逆の有様になってしまって、菊地さんにはお気毒でしたが、私には野村さんの御研究心の御熱心さに敬服致しました。

金沢に帰ってから、頂戴した御手紙に「向う少くとも30年計画でコツコツと努力、不退転の心境で精進をつづけたく、何卒将来共よろしく……。と書かれてありましたが、その半ばで御なくなりになられましたことは残念なことで、御本人もさぞかし御心残りのものがおありであつただろうと御察し致しますと、故人になお十年余の寿命を与えて下さらなかった神をうらみたいような気持ちが致します。（里見 信生）